

瀬川義明 2009～2010年 作品の解説

Notes on the Works of Yoshiaki Segawa in the Years 2009 ~ 2010

瀬川義明*

キーワード：洋画／油彩／キャンバス



「南風」1303mm × 1621mm F100
2009年 第41回 日展

解説 瀬戸内しまなみ海道（尾道～今治）は島と島が橋で繋がる島巡りの道である。「白南風」、「南風」、「海潮音」の連作のための取材は、夏と冬に出向くこと十数年。島々には、新しい船を造るための大小の船台と修理のためのドライドックがある。空を突き抜ける大型クレーンと船舶。調和する構成には、自立した形と余白との折り合いに試行錯誤する。制限された色による船舶は、未完の美しさが漂う表現をめざした。潮風とオイルのにおい。OTIS REDDINGの「THE DOCK OF THE BAY」、乾いた歌声が聞こえそうだった。

* SEGAWA, Yoshiaki
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
図画工作



「南風」1303mm × 1621mm F100
2010年 第96回 光風会展

解説 瀬戸内の島の造船所では鉄板と鉄板の溶接は閃光の中での作業が進んでいる。構内全体を俯瞰するため、社屋の3階からの取材となった。視覚が高くなると作画のプロセスがわかりやすい、のびやかな風景をどれだけ引きよせられるか試みた。



「北へ」970mm × 1303mm F60
2010年 第66回 現代美術展

解説 金沢港での取材である。カツオ、マグロ、イワシ、アジ等を捕らえる巻き網船団（伝馬船、探索船、運搬船、網船）の一団七隻が港に逗留する形は巨大な鉄の塊のようである。北海道は広尾、釧路沖まで出漁するという。装備の複雑さ、絞り込んだ色数により強靱な質感にも存在感がある。説明にならないよう具象への思いを画布に取り込んだ。